

# 山と花のたより 128号

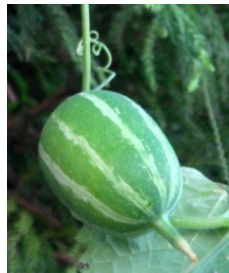
2010年9月20日 松尾

メールアドレス [tadashi6414@smile.ocn.ne.jp](mailto:tadashi6414@smile.ocn.ne.jp)

## 二上山だより

### 夜、妖しく揺らめくレース飾りの花

カラスウリの花をやっと写真に出来ました。この花は夜開花し、朝閉じてしまうので、日暮れを待ち、昼間蕾を見つけておいた場所に、登山用キャップランプ、フマキラー等持参で出かけて写しました。



しかし澤木さんの作品と比べると、ピンボケでまわりのレース模様の繊細さが出ていないのです。

華麗さを欠く写真で、カラスウリに **カラスウリ (ウリ科カラスウリ属)** は申し訳ありませんが、この花の妖しさだけは分っていただけるのではないかと、自らを慰めています。

←カラスウリの実。赤くなると秋の深まりを感じます



**タカサゴユリ (ユリ科)**

人間って勝手ですね。

勝手と言えば、二上山に仔猫やニワトリを捨てた人に「生き物を飼う以上、最後まで責任を持って」と言いたいですね。



それにしても仔猫たちも鶏もよく生き延びていますね。

←ネコハギ (マメ科ハギ属)

**ウド (ウコギ科タラノキ属) →**

「独活の大木」のウドです。

### 台湾から来たタカサゴユリ

山添村の名阪国道沿いの斜面(法面)にも、川上村の国道沿いにも、そして二上山にも左写真の白いユリが咲いています。台湾原産のタカサゴユリかその雑種だそうで、近い将来全国を席捲するのではないかと思われる勢いです。

こうまで蔓延すると「きれいだ」と思う先に「小憎らしい」との感情を抱いてしまいます。

勿論元々運んできた人間にこそ罪があり、植物に責任はないのですが、



## すっきり秋のたたずまい 涼風吹き渡る曽爾高原に下見登山



土庫病院ハイキングクラブの次回例会の目的地は曽爾高原と倶留尊山となっている。

この例会でリーダーを引き受けて下さった人達と9月14日下見に出かけた。

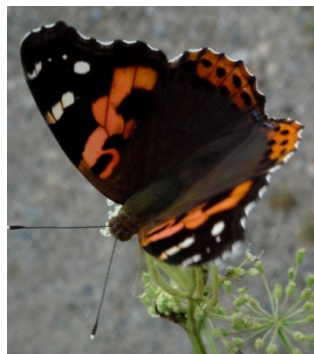
曽爾高原は名にし負うススキの名所。まだ色は不揃いながらススキの穂が、お亀池を取り巻く草原と背後の斜面を覆い、

その芒野をゆったりとそよがせながら、涼風が吹き渡っていた。昨日までの酷暑がうそのような爽やかさ。ここは秋なのだ。

下見登山なので時間を計りながらゆっくりと登る。ススキの根元を覗くとナンバンギセルがひっそりと咲いている。葛城山で見たオオナンバンギセル

の鮮やかなピンクと違って、白色を帯びた薄赤。色も姿も自らの寄生生活をはばかるよう。そう、この花はススキなどの根から栄養を摂る（盗る）寄生植物なのだ。

オミナエシ、サワギキョウ、シオガマギク、カワラナデシコなどは草原の中でもくっきり。一方ススキに埋もれながらもサワヒヨドリ、ハギ、ツリガネニンジンなども夫々なりに存在を主張しているよう。



アカタテハ

ウモンチョウがゆっくりと羽根を開閉させながら蜜を吸っている。ヒラリ、ヒラリと舞っているのは渡りをする蝶アサギマダラだ。キリギリスの鳴き声も久しぶり。

目も、耳も、鼻も、いや体全体が思いがけなく出会った秋に心地よく浸り、その風情を満喫している。草原を歩きかう人々もころなしかゆっくり歩いている。

長い酷暑に痛めつけられた心身にとって、この風情は何よりのご褒美、何よりの癒しなのかもしれない。

帰路、ファームガーデンで、朝採りの美味しい野菜をもとめて土産とした。



サワヒヨドリ

以上128号



シオガマギク



ナンバンギセル